

北欧語教育の「双璧」を目指す～大阪大学外国語学部デンマーク語専攻 50 周年を祝して

大阪大学外国語学部デンマーク語専攻が、大阪外国語大学外国語学部デンマーク語学科の設置以来、50年の節目を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

我が国における北欧語教育のパイオニアとしてデンマーク語専攻が開拓された50年の歩みは、遅れて1985年に設置されました私どもスウェーデン語専攻にとって、常により模範をとなるものでした。今日、私たちが我が国における北欧語教育のパートナーとしてみなさんと共にあることができるのも、デンマーク語専攻が北欧語教育のあり得べき姿を先んじて示してくれたお陰です。私どもは北欧語教育の「灯火」をかかげてくれたみなさんに敬意を表すとともに、これまでのご交誼に深く感謝します。

思えば、デンマークは日本にとって今も昔も国としてあり得べき姿を照らす「灯火」としてありました。今年は終戦から70年の節目にあたる年でもありますが、私たちは、戦後の復興期にあつて新たな学問の確立に尽力した先人たちの姿を忘れることはできません。矢内原忠雄や南原繁、大塚久雄といった先人たちは、内村鑑三が1864年のデンマークの経験から着想を得た精神に深く共鳴しながら、民主社会における新たな学問の姿を築きました。今日に至る学問の系譜は、「剣をもって失ったものを鋤をもって取り返さん」という言葉で内村が伝えようとした平和・民主・自尊といったデンマークの精神に導かれてきたのです。

デンマーク語専攻は、そうした先人たちとはまた異なる方法で「灯火」を掲げました。デンマーク語で語られた「生きた言葉」を通じてデンマークに肉薄する方法です。デンマーク語専攻が掲げたこの「灯火」がこの50年の我が国にとって有為であったことは、日本はもとより世界各地で活躍している700人以上の卒業生のみなさんの姿が雄弁に物語っています。今日、成熟した社会に生きるあらゆる人にとっての幸福を考える時、大学の使命は世界各地で語られる「生きた言葉」に真摯に耳を傾け、幸福に至る知性を伝えることにあります。世界と日本の媒介者として「生きた言葉」を理解できる人材が求められている今日、私どもスウェーデン語専攻も、デンマーク語専攻のこれまでの50年に学びつつ、これからの50年は世界に希望を示す学問の「灯火」を共に掲げ、北欧語教育の「双璧」たらんと欲します。

大阪大学外国語学部デンマーク語専攻が創設50年を契機に、これまでの経験を礎としながら更なる発展を遂げられますことを心からお祈り申し上げます。

2015年10月17日

大阪大学外国語学部スウェーデン語専攻関係者一同